

第23回国際視野画像学会・  
第7回日本視野学会学術集会  
に携わって



## 初夏の古都金沢で 最先端の視野と画像の話題を アットホームにdiscussion!

2018年5月9日から12日に「第23回国際視野画像学会 (Imaging and Perimetry Society : I P S)」、12日から13日には「第7回日本視野学会 (J P S) 学術集会」と2つの学会が、観光客でにぎわう初夏の金沢で開催されました。

ピアノを弾きながらAulhorn教授を紹介するSchiefer先生

### はじめに

金沢は、2015年に北陸新幹線が延伸開業してから観光客が増え、激変した町です。もともと、北陸の地方都市で昔からの文化はあるけれども、比較的地味なイメージでした。新幹線が開通したことにより、観光客の方が、金沢の文化の良いところを再発見し育てていただき、言葉は変ですが、より金沢らしく変貌を遂げた印象です。そして町も住民も文化も海外の人を受け入れるのに成熟してきたこのタイミングで国際学会を開催できたことは、本当に良かった。

石川県金沢市  
おおくぼ眼科クリニック  
院長 大久保 真司  
(金沢大学 臨床教授)



たのではないかと思います。

前回のBusiness Meetingで、近畿大学の松本長太先生が日本人で初めてI P SのPresidentに選出されました。今回は、日本での開催が2008年に奈良で開催されて以来10年ぶり4回目であると同時に、松本先生がI P SのPresidentになって初めて迎えるI P Sでもありました。また、大変評判の良かった奈良のI P Sのイメージがあるので、最高のホスピタリティを提供しなくてはならないと、大きなプレッシャーでした。

### I P Sの特徴

I P S最大の特徴は、臨床面から視野と画像に関わるOphthalmologistと、心理物理学など視野の基礎的な面から研究を行なっているPhDが一堂に会し、一つの会場でアットホームな雰囲気の下で十分に時間をとって議論を行なうことです。討論時間が長くとつてあるのもこの学会の特徴です。毎回、多少は異なりますが、今回もポスター発表では、3分間の口演に対し5分間の議論の時間が割り当てられました。初めてI P Sに参加された先生方は、少し驚かれたようです。今回は日本での開催ということ、日本人の発表者のいるセッションでは2人の座長のうち1人



ポスター会場で熱い議論が

は必ず日本人が割り当てられ、発表者にとっては精神的な支えになったのではないのでしょうか。また、若い先生方にとっては貴重な経験となったのではないかと思います。

また、会長の岩瀬愛子先生が、この学会は常に頭をすつきりさせながら聴講できるのが特徴であるとして、会場のすぐ外にお菓子とコーヒーのコーナーを設置されました。休憩時間には、会場の外でコーヒーとお菓子を手に活発な議論が行なわれていました。

海外の比較的小さな専門的な学会の場合、会期中の講演のない時間に観光や参加者の親睦を深めるための Social Events が企画されることが多く、充実した Social Events も I P S の特徴です。

### 学会のトピックス

今回、特別講演である I P S Lecture は、Iowa 大学の Michael Wall 先生が、*“Perimetry: Past, Present and Future”* というタイトルで講演されました。タイトル通り、視野計の過去から将来についてのご講演でしたが、その中で現在通常の静的視野計ではサイズ III が用いられています。サイズ V の再現性のよさを含めた有用性の話を最も強調されていたように思います。Wall 先生は、以前からサイズ V の有用性を I P S でも発表されましたが、今回まとめて聞くことができ、勉強になりました。反響も大きく、特別講演にもかかわらず、講演が終わるかわからないかのように、マイクの前に質問者の列ができていたのは、この学会ならではの感じました。個人的には、さらに小さい視標をはじめ、症例や疾患や病期によっていろいろ視標サイズを使い分けていくと、より多くのことがわかるのではと考えさせられました。

従来のもう1つの特別講演である

Aulhorn Lecture は、Aulhorn 先生最後の弟子である Ulrich Schiefer 先生の「若い人にもっと視野に興味をもってもらいたいので教育的な講演を取り入れたい」という希望もあり、President の松本先生、会長の杉山和久先生と岩瀬先生が決断され、思い切った Aulhorn Educational Lecture として、Schiefer 先生をはじめ Anders Heijl 先生、Balwantray Chauhan 先生、松本長太先生という4人の素晴らしい先生に、最先端でかつ教育的な内容を ご講演いただきました。

教科書でよく目にする先生の教育的な講演を聞くことができたのは、本当に素晴らしいことで、これだけでも I P S に参加する価値があったのではないかと思います。それにしても、Schiefer 先生が講演の冒頭でピアノを弾きながら、Aulhorn 先生の紹介をされたのは、かなりのインパクトがありました(準備の段階で、岩瀬先生と宇田川さち子事務局長の目が点になっていました)。

一般演題は63題でしたが、今回は日本開催ということもあり日本からそのうち37題が出され、学会を盛り上げていました。今回は J P S では演題は募集せず、すべて I P S で演題を募集しました。演題を出していただいた先生方、ご指導いただいた J P S の理事、評議員、会員の皆さまに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

### I P S J P S 優秀演題セッション

J P S のほうは、特別企画として、視野の本筋の基本から応用までを初心者からベテランの方まで、まとめて学んでもらえる拡大版の教育セミナーを行ないました。それに加え、シンポジウム、J P S コーキングセミナーも素晴らしい内容でした。J P S では、前述のとおり、一般口演は募集しませんでした。I P S に日本から出された演題の中から5題をプログラム委員会で「I P S J P S 優秀演題」として選出して、最先端の話題を日本語で大いに議論することができました。

### 金沢らしさにこだわった Social Events

今回も学会初日(口演開始の前日)の夕方に、Welcome Party を金沢城公園内の五十間長屋で開催しました。石川県輪島市の御陣乗太鼓で幕が開き、寿司などの料理とお酒で、I P S の常連メンバーも初参加の人も楽しく交流することができました。小規模の学会ですので、著名な先生方と非常に近い距離で交流できるのも I P S の魅力だと思います。



## Welcome Party



松本長太先生を中央に、左に杉山和久先生と杉山能子先生ご夫妻、右に岩瀬愛子先生とKi Ho Park先生



オープニングの御陣乗太鼓



開会のあいさつをする杉山先生と岩瀬先生



乳頭出血とtemporal raphe の話題で盛り上がる

## Dinner Party



「つば甚」にて、左側手前より吉富健志先生、可児一孝先生、吉川啓司先生、中野匡先生、右側手前より山崎芳夫先生、鈴木弘隆先生、福地健郎先生、私



太鼓をたたく松本長太先生と新家眞先生(さすが金沢出身、慣れた手つきで)

## Conference Tour



兼六園を散策

2日目の夜は、ミシュランの星を獲得している金沢で一番歴史のある料亭「つば甚」で鯛の唐蒸しや治部煮などの加賀料理をいただきながら、金沢芸妓の皆さんに金沢の伝統芸能である金沢おどりと太鼓を披露していただきました。太鼓は芸妓さんにご指導いただきながら体験することができ、皆さんストレスを発散できたのではないのでしょうか。

3日目の午後は、Conference Tourで兼六園やひがし茶屋街を散策しました。英語の話せるプロのガイドさん(通訳案内士)の評判が良かったようで、金沢の観光地としての進化が感じられました。

## Closing Banquet スギヤマリオ登場!

最終日はIPSのメインイベント(??)であるClosing Banquetが開催されました。国別に参加者がステージに上がり、母国の歌やパフォーマンスを披露することが恒例となっています。日本チームは、杉山先生がマリオ(スギヤマリオ)、松本先生がクッパ、岩瀬先生がピーチ姫に扮してクイズを交えたパフォーマンスを行い、「上を向いて歩こう」を日本人全員で歌いました。金沢大学の阪口仁一先生、土屋俊輔先生の名司会で、大きな盛り上がりを見せて無事終了しました。

## おわりに

杉山先生、岩瀬先生、松本先生をはじめとするJPSのメンバーと視能訓練士さんを中心とした金沢大学のスタッフの頑張り、素晴らしい学会を満喫することができました。

また、今回のBusiness Meetingの1回目からすべてのIPSに出席さ



## Closing Banquet



前列左より、中野匡先生、私、増田洋一郎先生、小川俊平先生  
後列左より、篠田啓先生、東出朋巳先生、杉山和久先生、宇田川さち子事務局長、  
国松志保先生、福地健郎先生、山下高明先生



前列左より、Dannheim先生の奥様、Wall先生御夫妻、岩瀬愛子先生  
後列左より、Dannheim先生、山本哲也先生、新家眞先生、Aung Tin先生



最後に日本人全員で「上を向いて歩こう」を熱唱



スギヤマリオ登場！  
クッパとピーチ姫と  
ともに

### 第23回国際視野画像学会 10年ぶり日本開催を終えて

近畿大学  
教授 **松本 長太**  
(国際視野画像学会 President)  
(日本視野学会 理事長)



IPSは視野と画像を最先端で研究されている各国の著名な先生方と、人として触れ合うことのできる絶好の機会です。論文や著書の中では分からない個々の先生方の研究に対するポリシーや人生観に触れることは、皆さま方の将来の眼科医、研究者としての生き方を変えるかもしれません。2020年度のIPSはサンフランシスコのパークレーで開催されます。ふるってご参加ください。

このたび金沢で開催されました国際視野画像学会（IPS）・日本視野学会（JPS）合同学会は成功裏に終えることができました。何年も前から入念に準備をしてこられた2018年度IPSの学会長である杉山和久先生、岩瀬愛子先生、第7回JPS学術集会の学会長である大久保真司先生、両学会の事務局長を務められた宇田川さち子氏、本当にお疲れさまでした。伝統ある金沢の地でこのような素晴らしい合同学会を開催できたことに関係者の皆さまに深く御礼を申し上げます。

れている可児一孝先生が名誉会員に選出されました。日本の視野研究を牽引されてきた可児先生の業績が世界に認められたことを日本人として誇りに思います。  
本学会で視野と画像に興味を持た

れた方には、ぜひIPSのメンバーになって、次回からのIPSも盛り上げていただければと思います。これをきっかけに、IPSとJPSがより発展することを祈念しております。